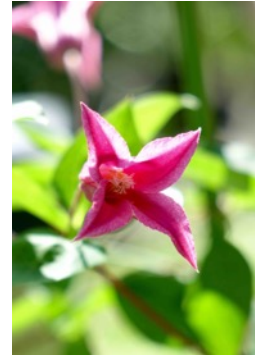


ひよこ新聞

嵐に次から次と襲われる時期が過ぎ、穏やかな秋が来たように感じます。先週ぐらいから朝晩が寒く（涼しいではなく）感じられるようになりました。服装を気をつければ急に風を引きやすくなるということはないのですが、気候の変化とともに鼻炎（くしゃみ・鼻水）や結膜炎（目のかゆみなど）のアレルギー症状が増えてきます。寝苦しい、よく目をこするようなら薬が必要です。天気の良い休日は家族で野外で過ごす機会を多く持ってくださいね。



小児科・子どもの病気の変化 (4) 気管支喘息

アレルギー関連で大きく変わったことが二つあります。一つは気管支喘息の治療、もう一つは食物アレルギーに関することです。

今回は気管支喘息に関する話題を紹介します。気管支喘息の治療を大きくかえた薬が2種類あります。一つは吸入ステロイド、もう一つはロイコトリエン拮抗剤です。

吸入ステロイドは20年以上前からあったのですが、ステロイドということであまり使われませんでした。

気管支喘息が「気道の慢性炎症」という考えが強くなり、吸入ステロイドにはステロイドを内服する時のような副作用がほとんど見られないことがわかり、10年ぐらい前から広く使われるようになりました。これにより重症の喘息・喘息発作での入院が大きく減りました。当院で使っている（処方している）吸入ステロイドはパルミコート、フルタイド、アドエアなどです。

ロイコトリエン拮抗剤にはオノン（プラシラカスト）、キプレス（シングレア）などがあります。1995年にオノンが成人で使い始められ、その後小児でも、

乳児からゼーゼーした咳に使われるようになりました。明らかにこの薬を使い始めてから喘息発作は減り、同時に軽症化しました。副作用がほとんどないことも広く使われている理由だと思います。これらの薬の出現と前後して、それまで多く使用されていたテオフィリン製剤（テオドールなど）を使う機会が減りました。

さらに、乳幼児の気管支喘息に関してはウイルス感染症との関係が注目されています。最初はRSウイルス感染症でゼーゼーが起きやすく、気管支喘息と似た症状を起こすことが注目されていましたが、他の多くのウイルスでもゼーゼーすることがわかりました。この中から将来喘息に移行する子どももいるのですが、現在は以前考えていたよりも一時的なゼーゼーで終わる子どももかなりいると考えられています。



インフルエンザワクチン

10月からインフルエンザワクチン接種が始まります。インフルエンザは感染力強く、重症になることも稀ではないのでできるだけ多くの人、特に6ヶ月～小学生、65歳以上の高齢者、何らかの病気を持っている人に受けてもらいたいのです。卵アレルギーのある人も接種可能です。ひよこクリニックで受ける人には年明けの流行を考えてか、11月～12月に受ける人も多く見られますが、米国ではワクチンが接種可能となればできるだけ早く受けるように勧めています

ひよこドクター旅行：2016 イタリア：チヴィタ・ディ・バーニョレージョ

NHKのBSで紹介されたのを見て訪れたいと思いました。ローマから約100km北にあり、凝灰岩の丘の上にそびえ、繰り返す岸壁の崩壊や雨風による浸食されています。徐々にそして確実に破壊され崩壊の危機にあるため死にゆく町と称されています。長さ約300メートルの幅の狭い橋を歩いてここに入ります（車では入れません）。冬の人口は12名で、夏の人口は100名を超えるようです。僕たちが訪れた時も世界各地から多くの観光客が訪れていました。夏の日差しの下歩くのはかなり疲れました。



ひよこ絵本館 346 回

《しーっ！ひみつのさくせん》

4人組が森にやって来て獲物を捕らえようと作戦を立てます。チームワーク良く小さな声で「いくぞいちにのさん今だ」と虫網で捕獲しようとするが何度も何度も逃げられてしまいます。どうすると

他の生き物達と仲良くできるのかを知っている仲間、いるのですが…。失敗を繰り返すコミカルな男達のやりとりが可笑しさが込み上げてきます。絵本の始めに小さく書いてあるメッセージ「平和は力づくでは保てない。理解しあえる事でのみ得られる。」が最後にジーンと沁みてきます。（Yすぎやま）。

